

木月住吉団地自治会 事例紹介

組織体制のヒント

区域

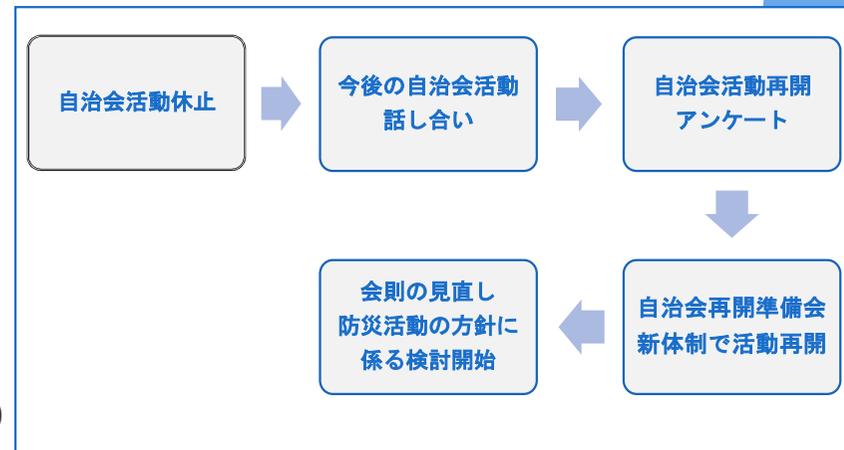
川崎市中原区木月住吉団地 1・2号棟（分譲棟）
3～9号棟（賃貸棟）

加入世帯

約240世帯

問合せ

中原区役所地域振興課 044-744-3159



「木月住吉団地自治会の活動変遷図」

木月住吉団地自治会の活動事例

組織体制 のヒントに「会長のなり手がいない」

1960年代から80年代にかけて、季節行事の開催や集団登校など活発な活動が行われていた木月住吉団地自治会。

1990年代に入り、建て替えに伴う住民の転居や役員の高齢化等により、徐々に公園清掃や広報誌配布等限定的な活動を少数の固定メンバーが担うようになり、更に2018年には会長が不在となったことにより数年間の活動休止状態に。

しかしながら、一部の旧自治会メンバーが改めて自治会の必要性を感じたことをきっかけに、自治会活動の再開について話し合いを行うようになり、若い世代も参加した新たな体制で活動の再開に成功。

その後、公園清掃の再開や会則の見直し、防災活動への注力。令和6年度は実際に災害が発生した際のソフト面の対応として「災害時活動ガイドライン」を作成するとともに、定期的な会議や防災イベントの開催等限定的ではあるが、時代や住民のニーズに合わせた自治会活動を実施しています。

休止からどのように活動を再開させたの？

全戸配布の「自治会活動に関するアンケート」を実施
自治会という存在があったこと、休止状態にあること、休止によるデメリットを見える化

活動を再開し、今後も持続的に継続させるために

「できることを持ち寄る活動」をモットーに

会長不在でも存続可能なフラットな組織づくり

背景

- 限定的であった活動の最中、会長の転居による活動の休止
- 自治会活動の必要性の再認識・活動の再開に向けた話し合い

取組

- これまでの自治会の常識にとらわれないフラットな組織づくり
- 防災活動への注力（ガイドラインの作成・イベント開催等）

再開後は、できることから少しずつ、住民のニーズを踏まえた組織運営を

会長不在のまま、各役員ができることを持ち寄り活動を継続、支え合える組織へ

01

「休止と再開」

再開準備委員会

会長の不在による活動休止後、市から公園清掃の助成金制度の紹介を受けたことをきっかけに、「今後の自治会活動」の話し合いを何度も行い、その中で、再開に関するアンケートを全世帯に対して実施。

自治会活動全般に関する質問を投げかけたところ、「活動の再開」について、好意的な結果となったことから、「自治会再開準備委員会」を発足。

自治会活動検討

自治会再開に関するアンケートでは、特に「防災への関心」が多かったことから、新体制に向けた会則の見直しだけでなく、住民のニーズを踏まえて、今後の自治会活動における防災活動の方針についても検討を開始することに。

規約の見直し（休止と再開）

今後の自治会活動をするにあたって、再度休止となった場合に備えて、規約を改正

「本会の活動の継続が不可能になった場合に本会を休止とする。」と明記し、資産を保有する自治会として、休止の方法と再開の手続きの方法を規定。

02

「新体制」

会長に依存しない組織体制へ

会長が担ってきた業務を副会長等各役員ができることを取捨選択しながら行う。また、ブロック代表（棟階段ごと）も協力し、自治会の形を作り上げていく。

各々1年任期のため、年度ごとに活動レベルが変わってしまうが、まずはできることから。知識や経験を持つ役員の方に再任してもらえるケースもあり、後継者等を育てつつ、継続的な組織運営を目指す。

窓口の一本化

困りごとの解決や相談事は特定の役員に偏りがち。負担軽減を図るため、メールアドレス等連絡先の窓口は、事務局に一本化。

また、自治会ポストを設置し、何かあればそこに投函してもらえる仕組みへ。

ポイント制の導入

理事（ブロック代表）の方が活動に参加するハードルを下げる取組として、参加への感謝として、総会等活動内容ごとにポイントを付与し、ポイント合計に基づいて謝礼を支給することに。全部の活動には参加できなくても「可能な範囲での活動」を促す。

03

「防災を中心とした活動」

防災ガイドラインの策定

再開に関するアンケートから、防災活動への住民ニーズが高いと考え防災活動を中心に活動を行っている木月住吉団地自治会。このため、防災のソフト面の対応として、公的機関の防災冊子等を参考に、木月住吉団地の構造等に合わせた「災害時活動ガイドライン【地震編】」を策定。

「ガイドライン」というと、情報量が多く、難解な印象がある中、本ガイドラインは、災害時に初めて見る人でも、直ぐに行動できるように「集合」「本部開設」といった災害時必要となる項目ごと簡潔に作成することで、迅速な対応が可能になっている。

活動の充実へ

活動再開のきっかけにもなった清掃活動は、会員の交流の場として月1回実施することで、日頃からの繋がりの場になっている。

また、防災活動としては、模擬消化器訓練や「無事ですプレート」を使用した安全合図訓練だけでなく、ランタンといった防災関連グッズをイベントの景品として配布。楽しみ要素は忘れずに防災イベントの充実を図ることで共助の強化を図る。